

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【令和3年9月】

■調査概要（データ対象期間：令和3年9月1日～9月30日）

○調査期間：令和3年9月29日～令和3年10月20日

○調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査

○回収状況：建設業18企業、製造業22企業、卸売業12企業、小売業24企業

飲食業18企業、サービス業40企業（運輸、不動産仲介業を含む）

<合計134企業>

○調査項目：9月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価

状況向こう3ヵ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI(Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準と

して、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下

向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示す

ものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI、水準DI共にマイナス幅の縮小

1. 業況判断

○全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲27.6）よりマイナス幅が7.4ポイント縮小し、▲20.2となった。業種別では、製造業はプラス幅が縮小した。建設業ではマイナスからプラスに転じた。飲食業、卸売業、小売業はマイナス幅が縮小し、サービス業ではマイナス幅が拡大した。

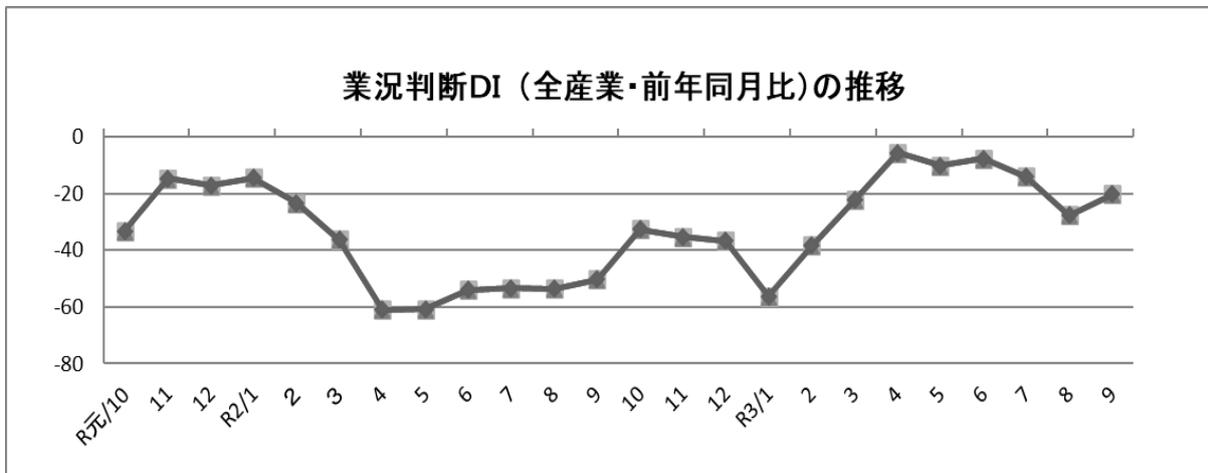
○全産業合計の水準DIは、前月（▲47.1）よりマイナス幅が10.5ポイント縮小し、▲36.6となった。業種別では、建設業ではマイナスから0になった。卸売業、サービス業、飲食業、製造業ではマイナス幅が縮小し、小売業ではマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況〔前年同月比〕				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	14.9 (12.3)	50.0 (47.8)	35.1 (39.9)	▲ 20.2 (▲ 27.6) ↗	8.2 (5.1)	47.0 (42.7)	44.8 (52.2)	▲ 36.6 (▲ 47.1) ↗
建設業	16.7 (0.0)	72.2 (70.0)	11.1 (30.0)	5.6 (▲ 30.0) ↗	11.1 (0.0)	77.8 (70.0)	11.1 (30.0)	0.0 (▲ 30.0) ↗
製造業	27.3 (45.5)	50.0 (27.2)	22.7 (27.3)	4.6 (18.2) ↘	13.6 (13.6)	45.5 (40.9)	40.9 (45.5)	▲ 27.3 (▲ 31.9) ↗
卸売業	33.3 (25.0)	25.0 (25.0)	41.7 (50.0)	▲ 8.4 (▲ 25.0) ↗	25.0 (8.3)	33.3 (33.4)	41.7 (58.3)	▲ 16.7 (▲ 50.0) ↗
小売業	4.2 (3.7)	50.0 (48.2)	45.8 (48.1)	▲ 41.6 (▲ 44.4) ↗	8.3 (11.1)	29.2 (33.3)	62.5 (55.6)	▲ 54.2 (▲ 44.5) ↘
飲食業	0.0 (0.0)	44.4 (17.6)	55.6 (82.4)	▲ 55.6 (▲ 82.4) ↗	0.0 (0.0)	22.2 (11.8)	77.8 (88.2)	▲ 77.8 (▲ 88.2) ↗
サービス業	15.0 (7.5)	50.0 (67.5)	35.0 (25.0)	▲ 20.0 (▲ 17.5) ↘	2.5 (0.0)	60.0 (52.5)	37.5 (47.5)	▲ 35.0 (▲ 47.5) ↗

()内は前月データ

※「業況〔前年同月比〕」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計
 「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計



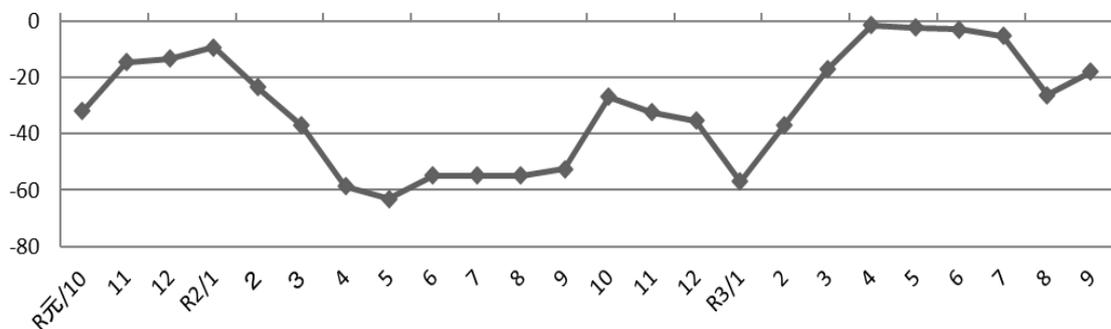
2. 売上高D I（前年同月比）

○全産業合計の売上高D Iは、前月（▲26.1）よりマイナス幅が8.2ポイント縮小して、▲17.9となった。業種別に見ると、製造業はプラス幅が縮小した。建設業はマイナスからプラスに転じ、卸売業はマイナスから0になった。飲食業、小売業はマイナス幅が縮小し、サービス業ではマイナス幅が拡大した。

【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	R2年9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
全 体	▲52.4	▲26.8	▲32.4	▲35.4	▲57.0	▲37.0	▲16.8	▲1.4	▲2.2	▲2.9	▲5.1	▲26.1	▲17.9	↗
建設業	▲39.1	▲15.8	▲22.8	▲13.6	▲47.4	▲20.0	▲30.0	▲30.0	▲33.4	▲18.2	▲26.3	▲25.0	22.2	↗
製造業	▲64.0	▲47.6	▲38.1	▲43.5	▲68.4	▲36.3	▲27.3	▲8.7	16.7	25.0	35.0	22.7	4.6	↘
卸売業	▲61.5	▲25.0	▲61.5	▲38.5	▲58.3	▲41.7	23.1	33.4	10.0	7.7	▲10.0	▲25.0	0.0	↗
小売業	▲36.4	▲13.1	▲17.4	▲7.4	▲38.5	▲8.4	▲11.1	3.6	▲8.3	▲16.7	▲13.6	▲48.2	▲45.9	↗
飲食業	▲88.2	▲58.8	▲68.7	▲87.5	▲94.4	▲81.2	▲57.9	▲18.7	▲31.3	▲10.0	▲25.0	▲82.4	▲61.1	↗
サービス業	▲44.1	▲17.4	▲20.5	▲39.6	▲51.3	▲43.2	▲2.4	9.7	13.6	0.0	0.0	▲15.0	▲17.5	↘

売上高DI（全産業・前年同月比）の推移



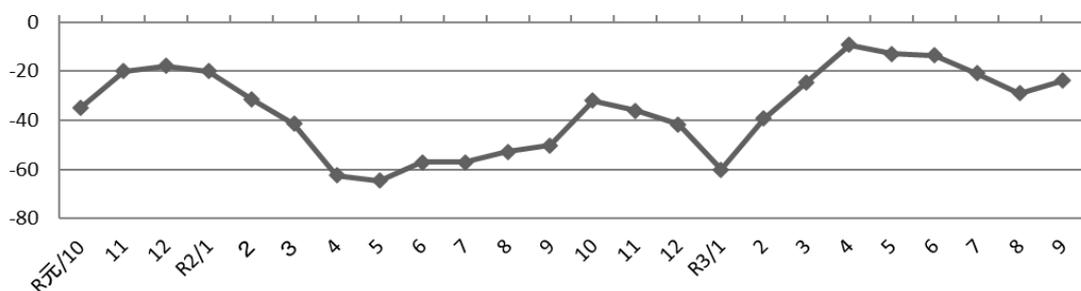
3. 営業利益D I（前年同月比）

○全産業合計の営業利益D Iは、前月（▲29.0）よりマイナス幅が5.1ポイント縮小して、▲23.9となった。業種別に見ると、建設業はマイナスからプラスに転じた。卸売業はマイナスから0になり、製造業はプラスからマイナスに転じた。飲食業、サービス業ではマイナス幅が縮小し、小売業ではマイナス幅が拡大した。

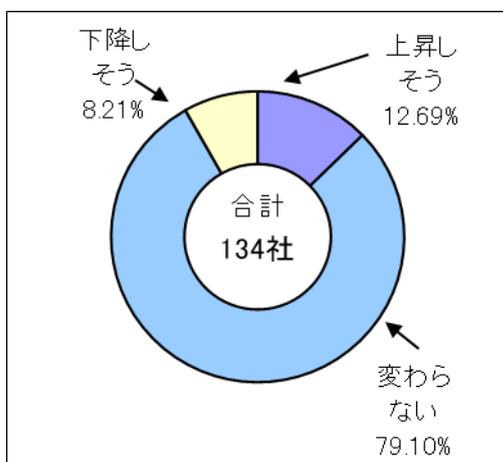
【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	R2年9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
全 体	▲50.3	▲31.9	▲36.0	▲41.7	▲60.0	▲39.2	▲24.5	▲9.3	▲13.0	▲13.5	▲20.8	▲29.0	▲23.9	↗
建設業	▲30.4	▲31.6	▲36.4	▲31.8	▲47.4	▲30.0	▲35.0	▲40.0	▲33.3	▲18.2	▲36.8	▲30.0	5.6	↗
製造業	▲60.0	▲52.4	▲57.1	▲56.5	▲73.6	▲31.8	▲31.9	▲17.4	4.2	▲5.0	5.0	4.5	▲4.5	↘
卸売業	▲46.1	▲25.0	▲46.1	▲23.1	▲58.3	▲33.4	7.7	16.7	0.0	▲7.7	▲20.0	▲16.7	0.0	↗
小売業	▲36.3	▲8.7	▲17.4	▲18.5	▲46.2	▲25.0	▲22.2	0.0	▲12.5	▲25.0	▲27.3	▲37.0	▲50.0	↘
飲食業	▲94.1	▲70.6	▲81.3	▲87.5	▲94.4	▲81.2	▲52.6	▲25.0	▲43.7	▲15.0	▲35.0	▲82.4	▲66.7	↗
サービス業	▲46.5	▲21.8	▲15.9	▲41.8	▲53.7	▲40.9	▲14.3	2.4	▲4.5	▲9.5	▲15.9	▲22.5	▲20.0	↗

営業利益DI（全産業・前年同月比）の推移



◇ 向こう3カ月の見通し ◇

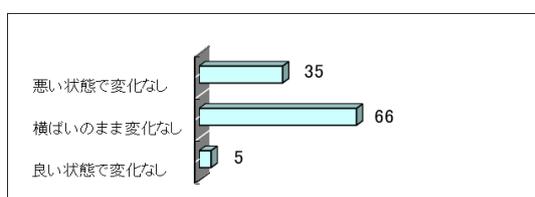


○令和3年10月～令和3年12月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ9.07ポイント上昇し12.69%、「下降しそう」が9.18ポイント減少し8.21%となった。業種別の見通しDIは建設業(11.1)、製造業(▲9.1)、卸売業(16.7)、小売業(0.0)、飲食業(0.0)、サービス業(10.0)であった。

➡「上昇しそう」では「今月が悪かったので、改善していきたいと考えているため」「8月豪雨災害の復旧工事が40ヶ所くらい発注されるため」(建設業)「新商品の投入、冬物商品への期待があるため」(卸売業)「賃貸への入居が増えてきているため」(小売業)「今までのコロナ禍での売上よりは上昇してきているのではないかと思うため」(飲食業)「既存のプロジェクトの回収、新規引き合いがあるため」「新内閣に期待しているため」「災害業務が出ており、10月から官庁の仕事が出てくると思われるため」「行事の撮影予約が入りだしたため」(サービス業)といった声が寄せられた。また「緊急事態宣言等の解除のため」「ワクチン接種率が増加しているため」「新型コロナウイルス感染症が落ち着きつつあるため」といった声が多数寄せられた。

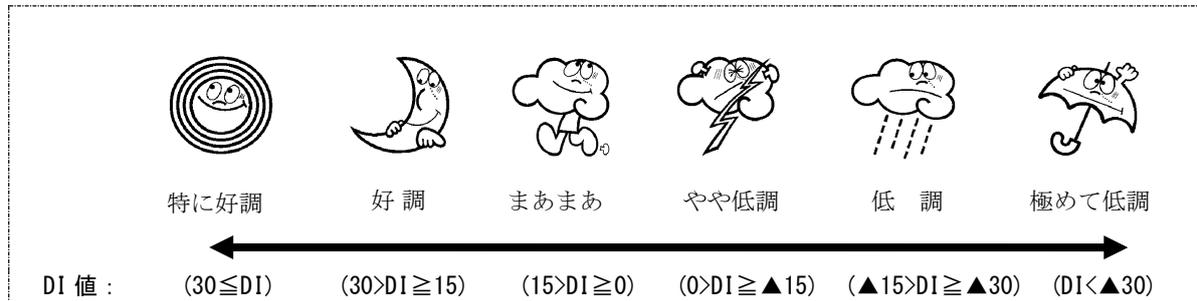
➡「変わらない」では「通常時と受注が変わらないため」(製造業)といった声が寄せられた。

➡「下降しそう」では「ITの浸透により今までの仕事が戻ってこない様相なため」「電子部品を中心に流通が悪すぎるため」「季節的要因のため」(製造業)「新型コロナウイルス感染症対策緩和で人流が多くなり、感染者数が増えるのではないかと予測しているため」「全てが解除されても先が見えてこないため」(飲食業)「求人が増加傾向にあり就職が比較的容易で職業訓練希望者が減少しているため」(サービス業)といった声が多数寄せられた。



業種別景況

<DI | 君の景況判断>



1. 建設業



【項目別DIの推移】

	R2年9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上高	▲ 39.1	▲ 15.8	▲ 22.8	▲ 13.6	▲ 47.4	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 33.4	▲ 18.2	▲ 26.3	▲ 25.0	22.2
受注量	▲ 34.8	▲ 21.0	▲ 18.2	▲ 27.3	▲ 31.5	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 45.0	▲ 28.5	▲ 18.2	▲ 36.8	▲ 20.0	0.0
受注単価	▲ 21.7	▲ 10.5	▲ 13.7	▲ 4.5	▲ 15.8	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 19.0	▲ 9.1	▲ 15.8	▲ 10.0	▲ 5.6
営業利益	▲ 30.4	▲ 31.6	▲ 36.4	▲ 31.8	▲ 47.4	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 18.2	▲ 36.8	▲ 30.0	5.6
見通し	▲ 8.7	▲ 10.6	▲ 13.7	▲ 4.6	10.5	0.0	▲ 20.0	▲ 5.0	14.2	4.5	0.0	5.0	11.1

<経営者の目・見方・etc>

鉄工

- ・コロナ禍が始まってからオリンピック、パラリンピックは経済の負荷になっていたのではないかと感じる。ようやく終わり、総理大臣も同時に交代ということで新しい風が吹くことを期待している。
- ・鋼材、副資材の品薄感が先月同様感じられる。今後の受注に影響があるのではないかと考えている。
- ・鋼材の品薄が増してきている。

電気工事

- ・全般的に官庁関係の案件が少なく、民間も多いわけではない。コロナ禍だが案件が出ることを期待したい。

建築工事

- ・便器等の納期の遅れが改善されない。

2. 製造業



【項目別DIの推移】

	R2年9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上高	▲ 64.0	▲ 47.6	▲ 38.1	▲ 43.5	▲ 68.4	▲ 36.3	▲ 27.3	▲ 8.7	16.7	25.0	35.0	22.7	4.6
受注量	▲ 52.0	▲ 42.8	▲ 33.4	▲ 56.6	▲ 57.9	▲ 31.8	▲ 13.7	▲ 8.7	8.3	25.0	25.0	9.1	4.6
受注単価	▲ 20.0	▲ 19.0	▲ 19.0	▲ 17.4	▲ 21.1	▲ 18.2	▲ 18.2	0.0	0.0	5.0	0.0	▲ 9.1	▲ 9.1
営業利益	▲ 60.0	▲ 52.4	▲ 57.1	▲ 56.5	▲ 73.6	▲ 31.8	▲ 31.9	▲ 17.4	4.2	▲ 5.0	5.0	4.5	▲ 4.5
見通し	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 14.2	▲ 17.4	15.8	18.2	4.5	0.0	0.0	▲ 5.0	▲ 25.0	▲ 27.3	▲ 9.1

<経営者の目・見方・etc>

精密機械

精密機器組立

小型情報機器組立

印刷

金属塗装

紙器

清酒製造業

漬物・味噌
食品・飲料

- ・とにかく電子部品を中心に流通が悪すぎて先がまったく見通せない状況になっている。
- ・半導体を含む、電子部品の納期やコストアップの問題が深刻である。
- ・半導体だけでなく、チップ部品も入りづらくなり、ラインストップが続いている。
- ・行政、官公庁の印刷業界に対する風当たりが依然として厳しい状況なのに辟易とする。印刷用紙の値上げ、印刷資材としてのインキや印刷製版材料（印刷用の刷版プレートや現像、印刷機械調整の材料等々）の値上げが続いている中で、極端な安価で指値をされるストレスは極めて大きく、雇用的にも厳しい経営判断が強いられる。地元売上高リーダーが業界に対して無作為、無関心を続けてきたことで、いつの間にか地元ですらお金が落ちない業界になってしまっている。無作為なリーダーが高齢過ぎているにも関わらず、行政官公庁側も売上高だけを見て見積もりをしたり、発注したりするため、いつまでたっても業界の全体最適化は得られない。建設土木業界が適正価格の維持に努めるポスターを官公庁に貼っている中で、それよりも何ヶタも少ない事業をしている印刷業界が地域の雇用を守れない位に価格崩壊させてしまっている。地元印刷業界の高度経済成長期、バブル期の無作為のツケでもある。
- ・材料、原料が10月から10～15%値上がりになる。
- ・自動車業界の減産で受注が大幅減。半導体部品と東南アジア産の車の部品の安定供給が早く戻ることを希望する。
- ・なかなかコロナ禍以前のように戻るのは難しいのが現状である。波があり先が見えない状況である。
- ・県で「信州の地酒おトクーポン」が発行され、清酒等の拡売に期待したい。
- ・少しずつ地域の動きが見えてきた。
- ・糖類を初めとした原料の値上げが顕著になっている。

3. 卸売業



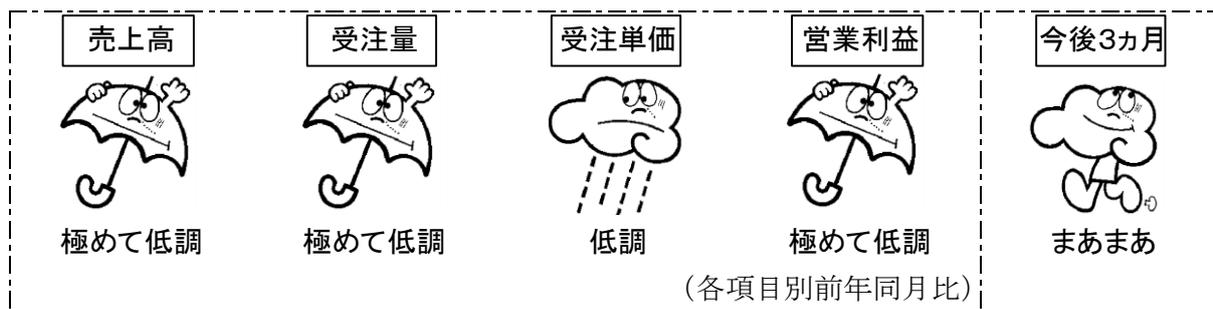
【項目別DIの推移】

	R2年9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上高	▲ 61.5	▲ 25.0	▲ 61.5	▲ 38.5	▲ 58.3	▲ 41.7	23.1	33.4	10.0	7.7	▲ 10.0	▲ 25.0	0.0
販売客数	▲ 30.8	▲ 16.7	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 33.3	▲ 33.3	7.7	0.0	0.0	▲ 15.4	▲ 10.0	▲ 16.6	▲ 25.0
販売客単価	▲ 30.8	▲ 16.7	▲ 15.4	▲ 7.7	▲ 33.3	▲ 41.7	15.4	8.4	30.0	15.4	10.0	▲ 8.3	0.0
営業利益	▲ 46.1	▲ 25.0	▲ 46.1	▲ 23.1	▲ 58.3	▲ 33.4	7.7	16.7	0.0	▲ 7.7	▲ 20.0	▲ 16.7	0.0
見通し	7.7	▲ 8.3	▲ 15.4	▲ 23.1	8.4	25.0	7.7	▲ 16.7	▲ 10.0	▲ 7.7	▲ 30.0	▲ 16.7	16.7

<経営者の目・見方・e t c>

- | | |
|--------|---|
| 青果 | ・野菜の単価比、昨年の132%、特にレタス、白菜の価格が非常に高く推移している。果実は主力のぶどう類の販売が好調である。10月以降も期待したい。 |
| 青果卸小売業 | ・長雨等の影響があり野菜作物(レタス、キャベツ、きゅうり等)が不作の為単価が高く利幅がなかった。松茸の豊作で利益が少なかった。 |
| 魚介類 | ・シルバーウィークの人の動きはあったが、飲食への貢献はあまりなかったように思える。 |
| 土産品 | ・相変わらず業績に上昇傾向が見えない状態である。中小企業等事業再構築補助金など活用し、景気回復に遅れをとらないよう進んでいきたい。 |
| 機械工具 | ・昨年の9月と比べると確かに良いのだが、新型コロナウイルス感染症の影響が無い一昨年と比べると悪い状態が続いており、年末に向けて売上が下がっていく予測を立てている。 |
| 金属製品 | ・各メーカーは依然強気の姿勢であり、値上げ傾向は変わらない状況である。材料の納期遅れや材料費の高騰により工事金額が上がり、これからの案件において延期または白紙になる話も出ている。 |
| 自転車 | ・原材料の価格の高騰が続いており値上げの話ばかりである。また、商品の供給も遅れが出てきている。来年用の新商品が発売される時期だが予定が遅れ気味である。 |

4. 小売業



【項目別DIの推移】

	R2年9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上高	▲ 36.4	▲ 13.1	▲ 17.4	▲ 7.4	▲ 38.5	▲ 8.4	▲ 11.1	3.6	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 13.6	▲ 48.2	▲ 45.9
販売客数	▲ 36.4	▲ 26.1	▲ 26.1	▲ 29.7	▲ 53.9	▲ 20.8	▲ 18.5	▲ 10.8	▲ 4.1	▲ 20.8	▲ 13.7	▲ 44.5	▲ 50.0
販売客単価	▲ 31.9	▲ 4.3	▲ 21.7	▲ 3.7	▲ 7.7	▲ 8.3	▲ 14.8	▲ 10.7	▲ 8.4	▲ 29.2	▲ 13.7	▲ 29.6	▲ 20.9
営業利益	▲ 36.3	▲ 8.7	▲ 17.4	▲ 18.5	▲ 46.2	▲ 25.0	▲ 22.2	0.0	▲ 12.5	▲ 25.0	▲ 27.3	▲ 37.0	▲ 50.0
見通し	0.0	▲ 8.7	▲ 8.7	▲ 18.5	▲ 3.8	0.0	7.4	▲ 14.3	▲ 20.8	▲ 8.3	▲ 13.7	▲ 14.8	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

陶磁器

- ・厳しい残暑もなく、雨の日も少なく、行楽には最適な天候であった。オリンピック、パラリンピックが終わると感染者数も減少傾向に転じ、休日の人出は観光客中心に多く、緊急事態宣言下にあった地域からの車両も多く見かけた。蒸発していた飲食店からの注文も復活の気配を感じるようになった。大都市圏からが中心だった空テナントの引き合いにも、県外の主要地方都市からの紹介も散見されるようになった。

印章

- ・業界の展示会が週末開催から平日開催に移行した。週末に休むのが当たり前だった業界が変わってきたのではないかと感じている。9月13日の長野県の営業自粛解除以降、飲食店にお客様がいてほっとしている。

燃料

- ・原油価格の動きが顕著であり、加えて半導体の不足もあるため影響をかなり受けている。また新型コロナウイルス感染者数が減ってきているのでこれに伴い良い影響が出てきてくれると嬉しい。

ガラスサッシ

- ・ウッドショックに関連してなにかわからないが、ガラス等関連資材の大幅な値上げの連絡があり、融通可能な資金の範囲内で先買いをした。しかしこれからの営業は非常に大変になると予測している。

住宅機器

洋菓子店

- ・YKKの樹脂サッシ、トイレ、エコキュートが納期遅延している。
- ・アフターコロナを見据えて、ケーキ屋、パン屋の開業や飲食店のスイーツ、パン形態への変化が見られる。テイクアウト需要が大きいからだと思うが今後新型コロナウイルス感染症が落ち着いたときに状況をよく見る必要がある。また、繁盛しているお店とそうでないお店の二極化が進んでいる気がする。

パン

- ・土日祝の連休は観光客らしきお客様でにぎわっていた。また、観光地や式場からの卸の注文も入るようになり、人の動きが少しずつ活発になっている印象がある。

和菓子

おやき

- ・友人グループでの観光が多く見かけられた。
- ・新型コロナウイルス感染症が少し下火になってきた感じがしているのだが、業況にはまだ反映されていないようだ。第6波も危惧されているので期待と不安が同居している。

生鮮食品

・前半は雨が多く松本市内域も他の施設も閉鎖して動きもあまりなかった。長野県医療非常事態宣言が解除になってからは敬老の日、秋分の日と重なり人も動き良かった。

手芸材料

・観光客がなく、地方のお客様もほとんどなく昨年同月と同様か、それ以上に厳しかった。

5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	R2年9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上高	▲ 88.2	▲ 58.8	▲ 68.7	▲ 87.5	▲ 94.4	▲ 81.2	▲ 57.9	▲ 18.7	▲ 31.3	▲ 10.0	▲ 25.0	▲ 82.4	▲ 61.1
販売客数	▲ 94.1	▲ 70.6	▲ 68.7	▲ 93.8	▲ 94.4	▲ 81.2	▲ 52.6	▲ 18.7	▲ 37.5	▲ 5.0	▲ 25.0	▲ 76.5	▲ 66.7
販売客単価	▲ 47.0	▲ 52.9	▲ 56.3	▲ 75.0	▲ 66.7	▲ 81.2	▲ 31.6	▲ 37.5	▲ 56.2	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 52.9	▲ 44.4
営業利益	▲ 94.1	▲ 70.6	▲ 81.3	▲ 87.5	▲ 94.4	▲ 81.2	▲ 52.6	▲ 25.0	▲ 43.7	▲ 15.0	▲ 35.0	▲ 82.4	▲ 66.7
見通し	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 22.2	▲ 18.8	▲ 15.8	▲ 6.3	0.0	5.0	▲ 15.0	▲ 29.4	0.0

<経営者の目・見方・e t c >

料理

・新型コロナウイルス感染症による人の動きと気持ちが営業時間短縮等要請により滞ってしまい店内はガラガラの状態だった。

創作料理

・8月のお盆前に9月の予約が7件入っていたが、新型コロナウイルス感染症のレベルが5に上がったため、全てキャンセルとなった。9月については、仕出しが僅か2件となってしまった。9月下旬、10月の予約が入り始め、平常時とは比べものにならないが、動きが出始めたかなと感じている。レベルが下がったにしても、生活のリズムが変わってしまった現状に不安を感じざるを得ない。

郷土料理

・ワクチンの普及により、特に中高年が多く来店するようになった。地元だけでなく他県からも来店が増えた。土日の来店客も増えつつあり、多人数での法事なども催されるようになってきた。世の中の考えも緩んできているようである。

中華料理

・10月より全面解除になって、新型コロナウイルス感染者増加の不安と売上アップと複雑な思いだが、今を生きる人々にエールと感謝である。

そば

・9月前半まで時短営業が延長され厳しい1ヶ月であった。ワクチン接種も少しずつ進み多少なりとも明るい兆しが見えてきたような気がする。前を向いていくしかない。

寿司

・引き続き、緊急事態宣言下の中で地元のお客様含め、低調な動きであった。ただ、10月に入ってからは非常に堅調であり、特に郊外の店舗は2年前のコロナ禍前を超えるお客様の来店があった。今後の懸案は、年末年始に向けた第6波と言われる感染拡大である。公の基準に則り安心安全な空間でお出迎えできるように心がけたい。

・営業時間短縮等要請も解除され、人や車などの流れが目立つようになった。しかし、夜の客足はまだまだのようだ。新型コロナウイルス感染者数もかなり少なくなってきており長野県新型コロナウイルス感染症・感染警戒レベルも1まで下がった。このまま収まってくれれば非常にありがたいがどうなるのかわからない。

食堂

居酒屋

- ・9月12日まで県の要請があり休業していた。その後もお客様の来店数は横ばい状態だった。当然県外のお客様も少ない状態だったが多少は来店された。
- ・時短営業が解除されても客足は戻って来ず、気温が下がり季節の変わり時で出足が悪いと感じられる。
- ・全国的に新型コロナウイルス感染者が急激に増加し、松本市内でも毎日感染者が出ているので、来客数も減り売上減が続いている。
- ・9月12日までの時短要請が明けて少しずつお客さんが戻ってきた。
- ・新型コロナウイルス感染拡大が続き、またお盆の大雨の影響で来客数が落ち込んだ。現状では回復は見込めない。
- ・9月決算の店があるのだが、今期で閉店を考えているという声があり、10月11月の閉店が出てくると思う。

6. サービス業



【項目別DIの推移】

	R2年9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上高	▲44.1	▲17.4	▲20.5	▲39.6	▲51.3	▲43.2	▲2.4	9.7	13.6	0.0	0.0	▲15.0	▲17.5
販売客数	▲41.9	▲19.6	▲18.1	▲34.9	▲56.1	▲43.2	▲11.9	9.8	2.3	0.0	▲6.8	▲22.5	▲17.5
販売客単価	▲20.9	▲8.7	▲6.8	▲14.0	▲24.4	▲27.2	▲2.4	7.3	▲9.1	▲4.8	▲9.1	▲7.5	▲10.0
営業利益	▲46.5	▲21.8	▲15.9	▲41.8	▲53.7	▲40.9	▲14.3	2.4	▲4.5	▲9.5	▲15.9	▲22.5	▲20.0
見通し	▲4.6	▲6.5	▲16.0	▲23.3	▲12.2	4.5	▲2.3	▲17.1	▲2.3	14.2	▲18.2	▲7.5	10.0

<経営者の目・見方・etc>

旅館

温泉旅館

観光旅館

宿泊

ホテル

ホームクリーニング・リネンサプライ業

介護サービス

- ・新型コロナウイルス感染症と台風の影響でなかなか回復しない。
- ・ワクチン接種率も60%を上回り、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が全面解除になり、国民の気持ちも気分が軽くなり、遅くなったがやっと観光するムードになってきた。少し安堵している。
- ・8月後半の悪天候では悩まされたが、9月は台風の接近を除いて天気恵まれた。一方、岐阜県飛騨地方を震源とする地震により、上高地周辺の山々の登山道の一部も被害を受けた。また、風評によるキャンセルもあった。現在は沈静化しているので、このまま収束して欲しい。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の解除で、県を跨いだ移動が多くなり、今年の秋のように大勢のお客様が訪れることを期待したい。
- ・前半は新型コロナウイルス感染症の第5波の影響を引きずり伸び悩んだが後半以降、連休や好天候、また宣言解除やワクチン普及などにより人出が戻り、昨年比で微増となった。
- ・宿泊客は少し戻ってきてはいるが、宴会の需要はほとんどないのが現状である。
- ・新型コロナウイルス感染拡大が収束しつつある中、原油価格が上昇しており今後経営状況を圧迫しそうである。
- ・コロナ禍の動向がどのようになっていくのか。地域の動き出しを左右する大きな問題であると考えている。次期政権の経済の立て直しはどうなるかわからないが、少なくとも高齢者福祉については根本的な政策転換を求めたい。

写真	<ul style="list-style-type: none"> ・9月後半より新型コロナウイルス感染者が減少して少しずつ生活を取り戻してきていると思う。七五三等の行事の撮影予約が増えてきた。学校などの行事もだんだんと行われるようになってきている。
測量・設計 <small>測量・建設コンサルタント業</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・国や地方の各選挙の結果がどうなるのか気になる。 ・8月の大雨による災害復旧業務で、9月は測量現場が忙しかった。どこも人手が足りず、対応に苦慮している。ただ、災害以外の受注が少なく例年と比べて半分以下だった。
機械設計	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事量が多いが購入部品が手に入らない状態が続いている。来年まで続きそうだ。
ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外からの引き合いがある。特にIT関連はリモートワーク主体にできるため、一定の環境さえ揃えば以前よりも生産性を高めることが可能である。昨今はシステム化を引率してきた世代の引退が近づくため、人材の育成を含めたシステム化投資が増えてきていると感じる。
タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に係るまん延防止等重点措置が近々解除されたとしても早急にはもとに戻らない気がしている。
自動車整備・板金塗装	<ul style="list-style-type: none"> ・ガソリンがどんどん値上がりしている。新型コロナウイルス感染症対策がゆるんでも、人の増え方は鈍いのではないかと気にかかるところである。
教育業 リラクゼーション	<ul style="list-style-type: none"> ・まだまだ自粛体制中ということもあり、イベント等中止が多い。 ・緊急事態宣言の影響で、人通りが少なかった。